

有珠山の火山活動解説資料（令和6年7月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～④、図2～5）

監視カメラによる観測では、山頂火口原からの噴気の高さは火口縁上100m以下で経過しており、噴気活動は低調な状態です。

17日に実施した現地調査では、前回（2023年11月）の観測と比較して山頂火口原^{アイ}火口や銀沼火口の噴気の状況や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。西山西麓火口群N-B火口ではほとんど噴気は確認されず、地表面温度分布に大きな変化はありませんでした。昭和新山亀岩南側では噴気温度のわずかな低下が認められ、長期的な熱活動の低下傾向が続いていました。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑤、図6）

火山性地震は少ない状態で経過しました。震源は山頂火口原及び昭和新山付近の深さ1km以浅に分布しました。

火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図7）

GNSS連続観測では、火山活動の高まりを示すような変化は認められません。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び北海道のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『数値地図 25000（行政界・海岸線）』、『基盤地図情報』及び『電子地形図（タイル）』を使用しています。

今回の火山活動解説資料（令和6年8月分）は令和6年9月9日に発表する予定です。

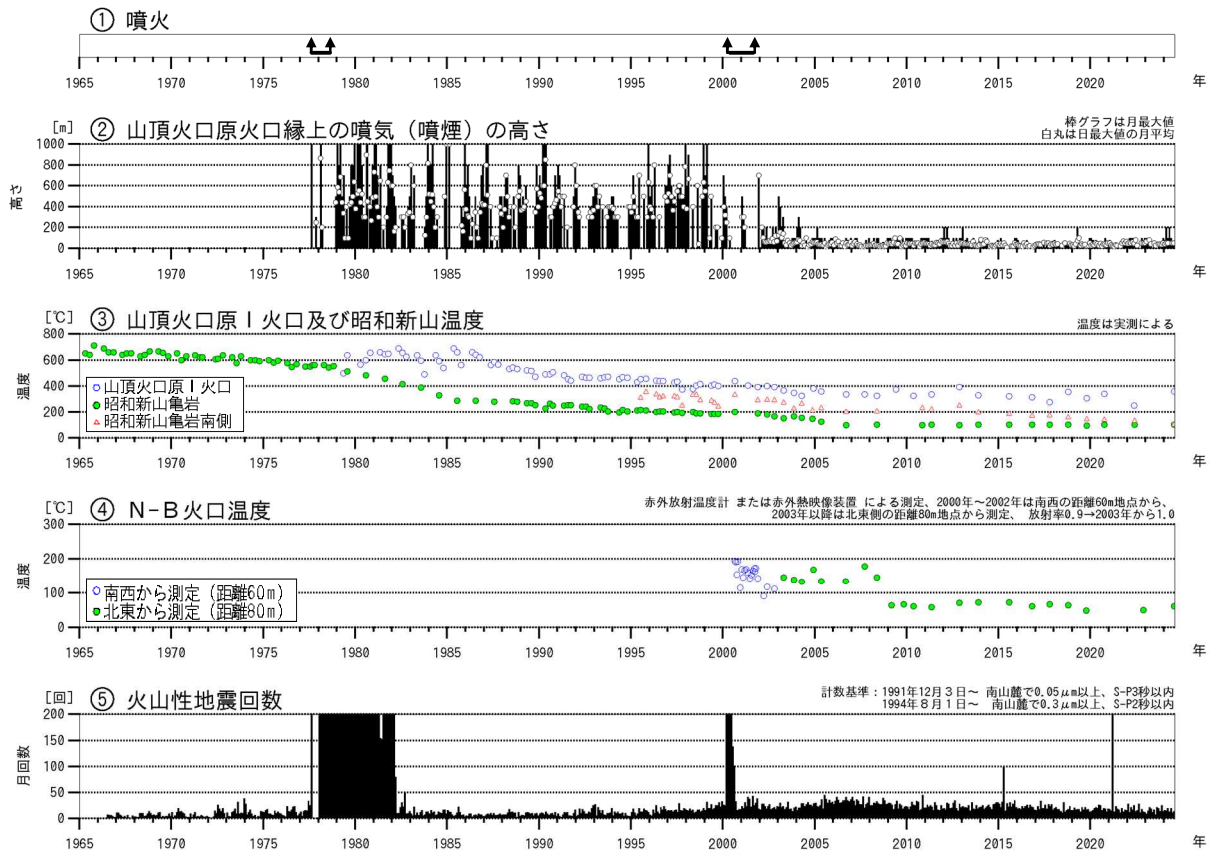


図1 有珠山 火山活動経過図（1965年1月～2024年7月）

↑印で挟まれた期間は噴火活動期を示します。

⑤の地震回数で、1991年12月2日以前の計数対象観測点は以下の通りです。

- 1966年7月1日～ 大有珠から南東側約1.8km地点
- 1976年8月31日～ 山頂ロープウェイ駅付近
- 1978年1月12日～ 大有珠から南西側約3km地点



図2 有珠山 周辺図 写真及び赤外熱映像の撮影地点と噴気温度測定地点
赤丸は赤外熱映像撮影地点、2本の直線でおおよその画角を示す
青丸は噴気温度測定地点

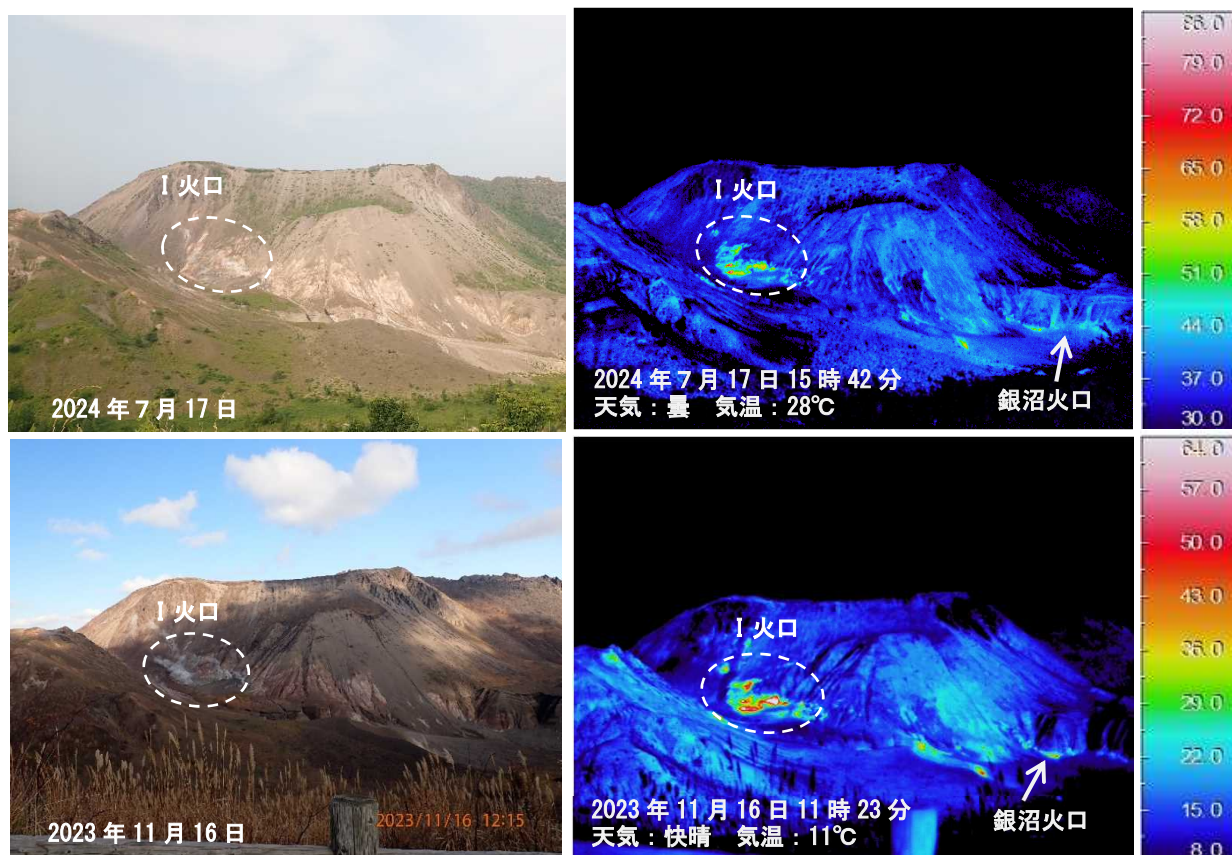


図3 有珠山 赤外熱映像装置によるI火口及び銀沼火口の地表面温度分布
図2の①から撮影
・前回の観測（2023年11月16日）と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

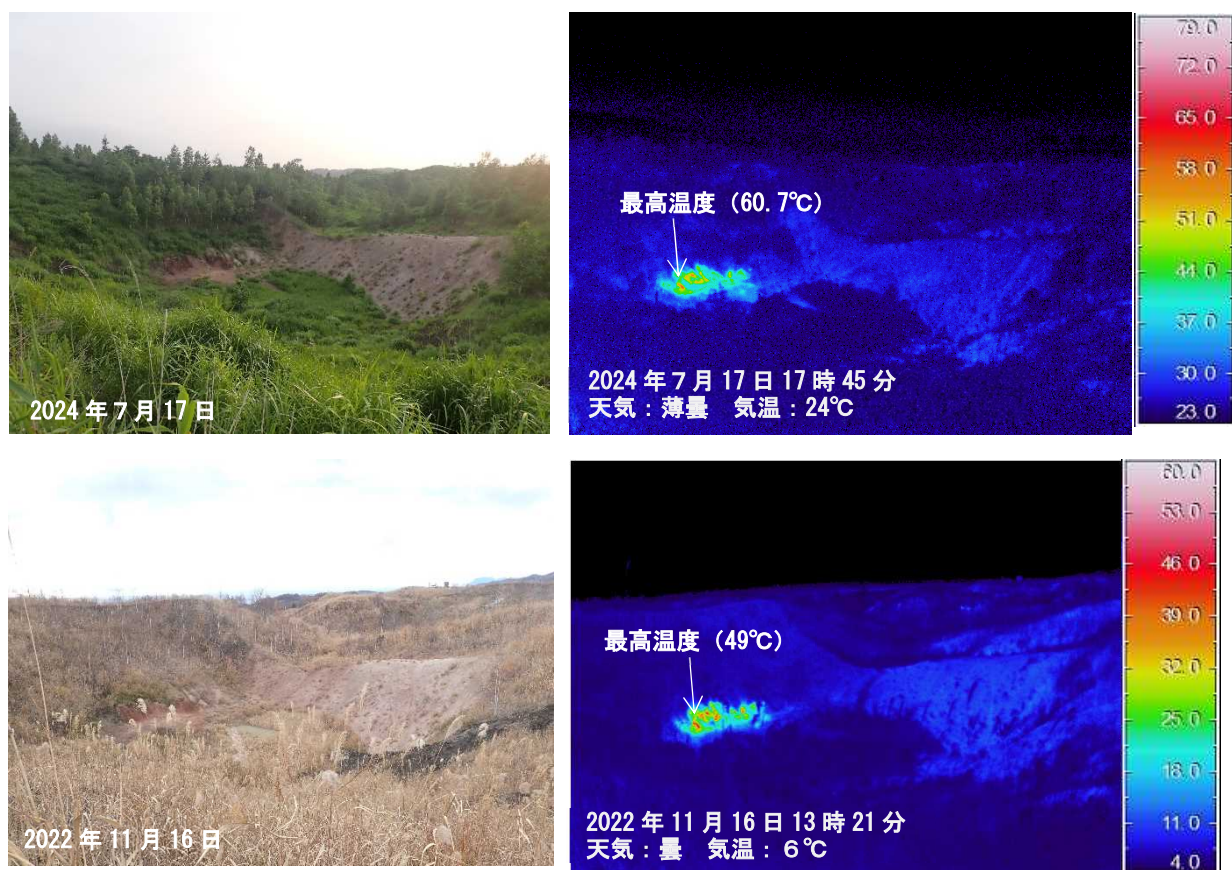


図4 有珠山 赤外熱映像装置によるN-B火口の地表面温度分布

図2の②から撮影

・前回の観測（2022年11月16日）と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。



図5 有珠山 北西側から見た山頂部及び周辺山麓部の状況（月浦監視カメラによる）

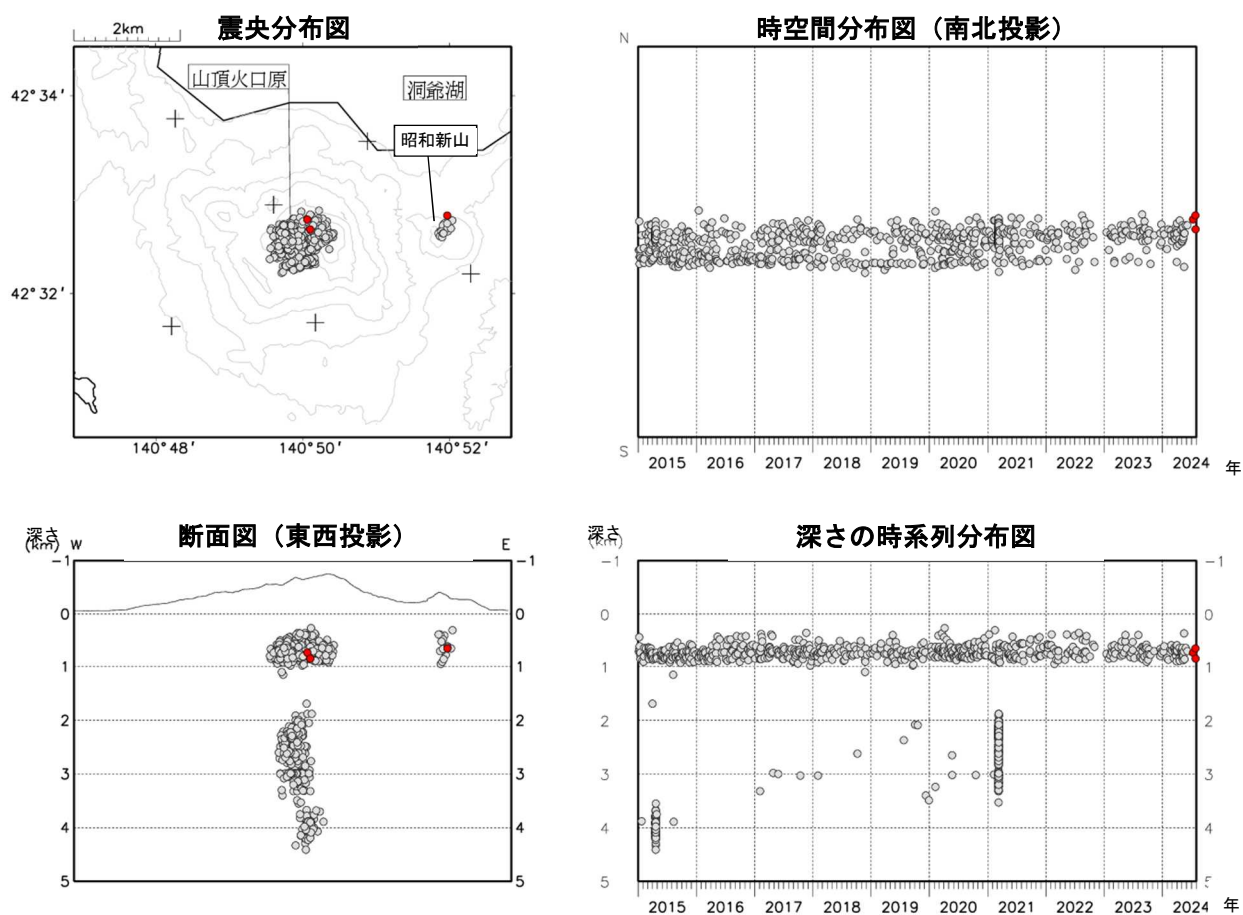


図6 有珠山 火山性地震の震源分布（2015年1月～2024年7月）

●：2015年1月～2024年6月の震源 ●：2024年7月の震源 +：地震観測点

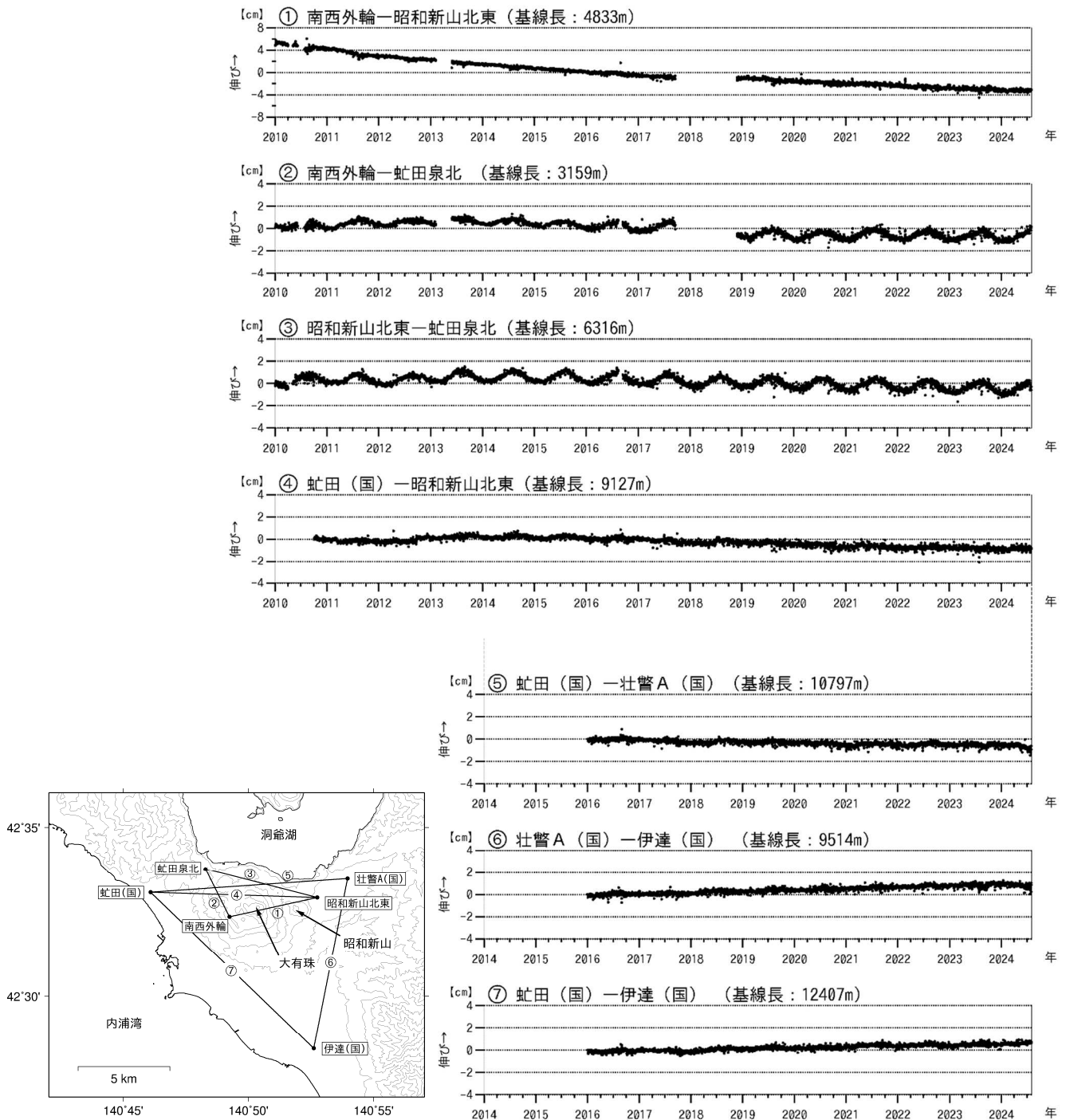


図7 有珠山 GNSS連続観測による基線長変化（2010年1月～2024年7月）及び観測点配置図
 グラフ①～⑦は観測点配置図の基線①～⑦に対応しています。
 グラフの空白部分は欠測を示します。

- ・ 基線①では、期間を通じて1977年噴火に伴う貫入岩体の熱収縮によって考えられる短縮が観測されています。
- ・ 有珠山周辺を挟む長基線（基線⑤～⑦）では、現在、特段の変化は観測されていません。

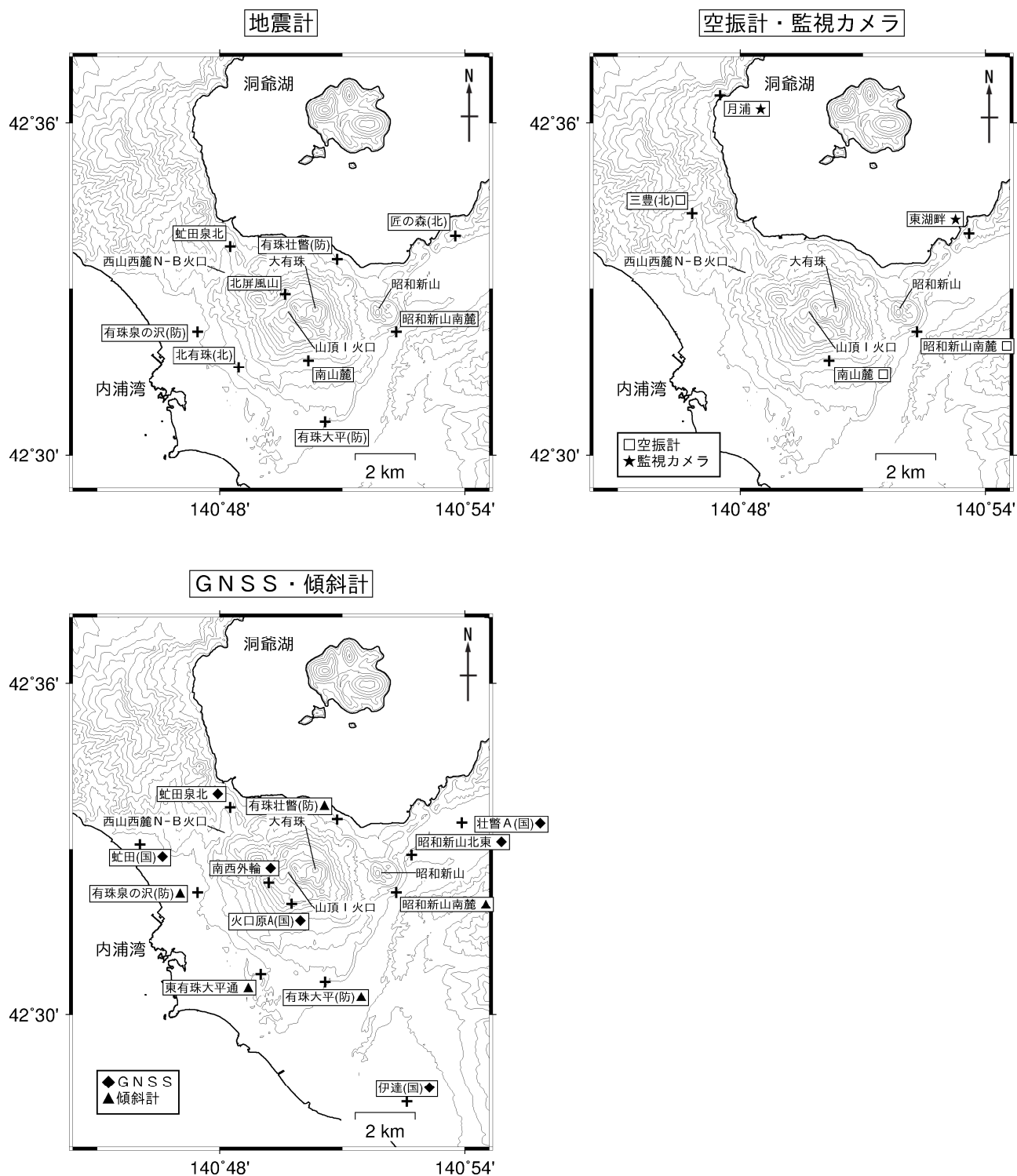


図8 有珠山 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院

(北) : 北海道大学

(防) : 国立研究開発法人防災科学技術研究所